

群馬県立吾妻特別支援学校

特別支援教育の支援センターとして



皆さんを応援します！

お申込み・問合せは、専門アドバイザー（長谷川健之）までお願いします。

【相談支援室（小中学部校舎）】

電話番号 0279-51-1111 FAX 番号 0279-75-3701

メールアドレス (アドバイザー専用) agatoku-snes01@edu-g.gsn.ed.jp

住 所 〒377-0423 群馬県吾妻郡中之条町伊勢町 1035-1

※8月21日 吾妻地区コーディネーター研修会が行
われました（吾妻特別支援学校高等部校舎）

内 容

研究協議

「問題行動についての校内・校外における連携」

講 義

「児童生徒の自死予防のためのかかわり」

講 師

日本体育大学児童スポーツ教育学部教育福祉系

准教授 宇部 弘子 先生

参加者の声

沢山の貴重なご意見、大変ありがとうございました。

(個人等が特定されないためなどの理由で、
表記が変更されている部分があります。ご了承ください。)

1 「研究協議」について

○ 今回学んだこと

- ・問題行動に対処する際は、ケースにもよるが、内外の機関と連携することが有効であると、各校の事例から実感しました。
- ・どのような機関、ツールがあるか、もう一度確認しようと思います。
- ・各校の事例を聞くことができ、自校のケースに当てはめると、大変参考になりました。本校でも「やってみよう」「変えてみよう」と思いました。
- ・校内支援委員会や生徒指導委員会などの体制など、他校の様子が聞けてありがたかった。
- ・医療機関につなげることも考えられたり、その時に気をつけなければならないことなどについてお話が聞けてありがたかった。
- ・具体的なことですが、〇〇（児童発達支援施設）の情報が聞けました。利用を必要とする子がいるので参考になりました。
- ・他園の取り組みを聞いて、自園でもやれることがあると感じました。
- ・外部機関につなげるに当たり、どこにつないだら良いか分からない。
- ・事例があることが分かった。そういう場合、ケース会議を行っていくことが大事である。
- ・支援計画等町村によつての違いがある。
- ・職員間の共通理解・連携の重要性
- ・他機関との連携方法—専門アドバイザーに相談。(今年は大丈夫だが頼りにしたい)
- ・他の園の事例に沿って、どんな方法で行ったか。具体的な方法が分かりやすかった。参考にしていきたい。
- ・外部機関との情報交換はいろいろなものがあることが分かった。
- ・保護者の養育能力も含めて、その家庭全体を支えていかなければならないと思った。
- ・福祉機関とのつながりも大切だと思う。子どもは(基本的には)ずっとその地域で育っていくので。
- ・問題行動の対応として、その行動に反応してしまいがちだが、反応しない。未然に防ぐ対応を考えていくことが大切。
- ・外部機関の名前は知っていても、実際にどのような機能をしているのかきちんと学んでいく必要性を感じた。
- ・事例が出ることにより、それに解決策が分かり、自分たちだけではないという思いがあり、頑張ろうと思った。

- ・外部との連携の仕方について誰が中心になり進めていくのか。
- ・医療費の発生とその支払いについて。
- ・他校の校内外の対応や相談機関との連携の仕方など大変参考になりました。
- ・他校の様子を知ることができてよかった。
- ・自分がやってきたことを振り返ることができた。コーディネーターの仕事ができていないと思っていたが、改めて整理するとやれていることも結構あったことに気がつくことができた。
- ・特支コーディネーターも生徒指導の一環として指導に関わっていくことが大切。本校は今、特支的なことを含めて全職員で共有している。
- ・問題行動に対して、つい過剰に反応してしまいがちだが、「計画的無視」あえて反応しないという対応の仕方を全職員で連携して行うというのは初めて知り、参考になりました。
- ・まずはケース会議がやはり重要だと感じました。(方向性・キーパーソンなどを決める)。
- ・「今日の〇〇小」という誰でも気がついたことを書き込めるフォルダーがあるという話を聞き、よい案だと思いました。
- ・医療機関との連携シートを利用するのもいい方法だと感じました。
- ・行動分析の大切さ。
- ・全職員での共通理解。
- ・ケース会議の必要性。
- ・〇〇(自治体名)の「保健室」の運営が参考になった。
- ・保護者支援も必要な場合の支援体制の作り方。
- ・校内だけでなく校外の専門家たちも交えた会議の必要性。
- ・他園や他校の取り組みを聞いて、共感したり、コーディネーターとしてどのように対応していったらよいか等、共通の課題があることを知った。
- ・校内での連携など、どこの学校も似たように会議をもって合理的に進めている。
- ・こども園などでも行動分析を取り入れて、問題行動に対応していることが分かった。

○ 新たな疑問・課題

- ・特別支援コーディネーターも生徒指導案件に積極的に関わるべきだと感じました。本校では、生徒指導委員会に特別支援コーディネーターが参加していないので、課題だと思います。
- ・医療機関を紹介する場合、どこの医療機関がその子に適当なのか難しい。(おすすめたくても、予約が一ヶ月ごとかであったりするので)
- ・外部機関との情報交換はした方が良いが、情報を提供するもののその後の対応については、情報がもらえない。
- ・幼小中の連携。夏休み中に情報交換を行う。学期に1回は参観に行く。(年度末の引き継ぎだけでは伝わらない。実態は分からない。)
- ・コーディネーターとしての取り組み方が課題になった。
- ・運転免許を持たない家族への支援について。(本校は「〇〇(福祉事業所)」にお世話になり、福祉サービスとして支援を受けているが、どこでも通用する方法ではないので。)
- ・外日の機関との連携は難しいところもあるが、いろいろな機会を捉えて、協力体制を作っていく必要

がある。

- ・外部機関の方も交えてのケース会議をコーディネートする際の連絡調整が難しいと感じています。
- ・数名の職員では共通理解ができていたが、全職員で行うことが必要。
- ・〇〇小の〇〇先生の質問での答えで、キーパーソンとなる人が母親しかいない場合はどうしたらいいのか・・・。
- ・医療機関につなぐ時に、保護者とどのように共通理解するとよいのか(学校で期待することと保護者の思いのズレ)
- ・コーディネーター任せにさせない(しない)の校内体制のつくり方。
- ・今後、具体的に各施設の役割等を知っていく必要があると感じた。
- ・自園の問題になったとき、速やかに対応していけるよう外部機関の機能を勉強していきたい。
- ・不登校の対策として、登校刺激を与えないとか学校の様子を細かく伝えストレスにつながるようなことがない配慮などが言われているが、第三者を通し「学校は何も伝えてくれない。ほっとかされている。」という話が聞こえてきたことがあり、難しく感じた。

2 「講義」について

○ 今回学んだこと・気づき

- ・児童生徒の自死が深刻になっていることや、背景、対応の仕方など、とても参考になりました。身近なところでも案件があったので、人ごとではなく、今回学んだことを今後活かしていきたいです。
- ・今回の内容は、コーディネーターより担任を持っている先生方が聞きたいものだと思います。校内研修で、お話をいただきたいと思いました。
- ・子どもたちから、話があったときの具体的な言葉がけを教えてくださいよかったです。
- ・オールマイティなどなく、周りを巻き込むことが大切なことを痛感しました。
- ・子どもが「死にたい」と行ってきたときには、覚悟が必要であることが分かった。その時に返す言葉がけなども、とても勉強になった。
- ・コーディネーターが一人で抱え込まずに、周りを巻き込んでチームで対応していくことが大切だと知りました。
- ・一人の大人として、素直にまっすぐ向き合う姿勢が感じられて、また具体的な言葉のかけ方も知れて、とても勉強になりました。
- ・「未来の糧」となれる保育者でいなくてはならない。
- ・大人が変わることが大切。
- ・「がんばれ!」というのがストレス。家庭でのストレスが増すだけで逆効果になる。→大人から大切にしてもらった経験を与える。(心に残った言葉)→子どもたちの未来につながっていることを忘れないようにしていきたい。
- ・今が大変であっても、子ども達の未来につながっていることを忘れないようにしていきたい。
- ・「死にたい」という気持ちを伝えてもらえるのは信頼されているから、ということがわかった。
- ・特性=持ち味「〇〇なんだよね～」ではなく、「こんな持ち味あるんだね」とプラスに捉えていくことが大切。

- どんなときでも信頼関係が大切ということを再確認しました。
- 自死を考える子どもの実例などが聞いて具体的にイメージができた。
- 二次障害にとどまらず、自死まで発展してしまう怖さを知った。
- 具体的事例が豊富で、分かりやすいお話で引き込まれました。
- 「今の関わりは未来の糧」を信じて、仕事に励みたいです。
- 今の関わりは「未来の糧」と思いながら、子どもたちに関わり保育をしていきたいと思った。
- 「今の関わりは未来の糧」を常に心にとどめておきたい。
- 興味深い話、分かりやすい資料の全てが大変参考になりました。
- 悩みのある子がいたときに、誰がその悩みに寄り添えるのかを見極め、「キーパーソン」を見つけることが大事だと改めて感じました。
- 子どもにとって初めての先生になるので、愛情・信頼関係の大切さ。
- 周りの先生を巻き込みながら、みんなで子ども達のためにできたらいいと思いました。
- 高校生、大学生の薬物使用について
- 自殺者数の変遷
- リスクの高い子に発達障害の特性がある。
- 一人で抱え込まない(コーディネーターの役割も分かりました。)
- SOSの見分け方や具体的な言葉かけなど分かりやすかった。
- 専門的な話しが聞いてよかった。園においては、直接園児に対してというより子育てで悩んでいる母親(時に鬱で悩んでいる母親)に対しての言葉かけ、対応はとても参考になった。

○ 新たな疑問・課題

- コーディネーターの役割として、人(教員)をコーディネートする必要性を感じました。今後の課題です。
- 職員それぞれの持ち味を大切にして、それを上手く活用したり、まとめたりしていくために、どんなことができるか考えたいです。
- 校外学習の折などで、自分の携帯番号を保護者に伝えることが当たり、その他連絡のしやすさで伝えたりすることが見られます。そのような場合の注意点、卒業後の取り扱いの注意点、保護者との共通理解などどうしたらよいか。
- 自分のクラスの子も不登校なので、今日聞いたお話を役立てたいと思いました。
- アサーショントレーニングについて
- ゲートキーパー研修の繰り返し
- 家庭との連携について→どこまで入っていったら良いか(家庭について)信頼してもらえるように、信頼関係を築いて。
- 自分のクラスの子どももよく「死にたい」(気持ちを引きたいだけだと思っていた。)と言ったり、頭をガンガン机にぶついたりする。これまでの対応がまずかったと思う。どうにもならない悲しみというのが伝わってくるが、それだけを見つめていても先に進めないなので、なんとか自分に自信を持って生きていけるようにサポートしていきたいと思っている。
- 今日のお話を上手に自校の先生方に伝えること。

- 幼児でも「持ち味濃いめ」の子がいたり、保護者の方もいるので、私の立場でできることは何かと考えさせられました。
- 周りの先生達にも伝え、その子に合った支援ができるように工夫する。
- 教師として、卒業させた子どもたちとの関わり方。
- 日々、子どもたちに接している担任や他の先生方にも内容を広げ、共通理解し、子どもたちの支援につなげていくことが課題。
- コーディネーターとしての質の向上に努めていきたい。

3 今回のテーマ以外で、今後コーディネーターとして学びたいこと・研修したいこと

- 児童相談所の仕事について、詳しく話が聞きたい。
- 吾妻郡内の外部機関についての情報。
- 班別協議で他校の様子が聞けるとありがたいです。
- 集団不適應について研修できるとよいです。

4 その他

- 宇部先生の話がとてもわかりやすく、興味深くてもっと聞きたかったです。
- (研修テーマに関係した) マンガの紹介、ありがとうございました。
- 講演は知らないことも多く、とても参考になりました。ありがとうございました。
- (自身が) 匂いに過敏なタイプで、(研修会場の) エアコンのカビの匂いが気になりました。子どもの健康が気になり、書いてしまいました。
- 宇部先生のお話、とても参考になりました。ありがとうございました。
- 準備等大変お世話になりました。班別協議は他校の様子が聞けてありがたかったです。宇部先生のお話でも発達と関連しており、改めて子どもたちの発達を考える機会になりました。ありがとうございました。